

令和3年度
事業報告

令和3年度事業報告	1
(1)本 部	2
各事業部会	8
(2)盲人ホーム杉光園	14
(3)東京視覚障害者生活支援センター	16
(4)検定試験事業	22
(5)附属明細書	23

令和3年度 日盲社協事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会

《はじめに》

令和3年度も、新型コロナウイルス感染拡大は衰えることを知らず、本協議会の活動にも大きな影響を及ぼしてきています。各部会の活動も当然のごとく制限を受けていますが、そんな中でも、オンラインを利用した情報サービス部会の研修会の開催や11月の第69回全国盲人福祉施設大会の開催が可能となったことは、一筋の光明でした。大きく移動することなく、また人が集まることなく研修を受けることができることは、このコロナ禍がもたらした、プラスの側面であったかもしれません。実際、全国大会は200名近い参加者を数えることができましたし、本協議会以外に目を転じて、対面の研修会では実現できなかった参加人数を数えるところも少なくありませんでした。

また、生活施設部会では、新たに施設間の相互理解を深めるための冊子を作成するなど、皆さんが一堂に会することができない状況を、いろいろな工夫で打破しようとする試みも行われました。

しかし、他の側面ではマイナスの方が圧倒的に多かったように思います。施設の運営の危機、他者とのコミュニケーションの途絶。接触の忌避や社会的距離の確保等、視覚障害のある方にとって、生活しづらい状況が作り出されているのは事実です。また、各施設は感染防止に常に気を配りながら運営を継続してきていますが、時として感染者を生むことも少なくなかったと思われます。そうした対応に手間や時間を取られ、職員の疲弊も決して小さなものではなかったのではないのでしょうか。

さて、コロナ以外での視覚障害のある方を取り巻く社会的環境は、この1年どうだったのでしょうか。本協議会が掲げるさまざまな解決課題は、解決に向かっているのかと言えば、簡単に首を縦に振ることはできません。盲養護老人ホームの利用制限とも言える状況、同行援護事業所の置かれた難しい状況、用具を構成するであろう半導体不足の状況、企業求人への厳しい状況、点字や音声、拡大文字による選挙のお知らせの置かれた状況。どれもその場にいらっしゃる方達の充実感を得られないような状況にあると思います。

一方で、あんま指圧マッサージの養成施設の開設についての判決、障害年金受給に関する基準の改正等、望ましい方向に進んでいると思われる状況も出てきました。就労移行支援では、在宅での訓練の基準が以前に比べて緩和され、多くの方が訓練を受ける機会を持つ方向に進み始めました。

他分野との連携では、全国47都道府県すべてに設けられたスマートサイトを通じての医療、教育分野との関係性の確立と深化は、今に留まることなく、これからもさらに進めるべき事項です。

本協議会は二つの施設の運営を行い、点字検定事業を実施しています。法人として足元をしっかりと固めることは当然として、さらに広い視野と発想で課題への取り組みができることを考えています。

《本部》

1 役員会等の開催

(1) 理事会 6回開催(決議の省略による理事会2回含む)

第1回理事会

期日 令和3年5月27日(木) 13:00~15:20

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続による各会場

議題 第1号議案 令和2年度事業報告(案)について

第2号議案 令和2年度収支決算報告(案)について

第3号議案 財産目録について

第4号議案 社会福祉充実計画について

第5号議案 定時評議員会の招集について

第6号議案 任期満了に伴う新評議員候補者の推薦について

第7号議案 任期満了に伴う新役員候補者の推薦について

報告事項 1 理事長及び業務執行理事の職務状況報告

出席状況 理事9名全員、監事2名全員出席により成立 名誉会長も出席した

第2回理事会

期日 令和3年6月15日(火) 15:00~15:40

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続による各会場

議題 第1号議案 理事長の選定について

第2号議案 業務執行理事の選定について

出席状況 理事10名全員、監事1名出席により成立 名誉会長も出席した

第3回理事会(決議省略による)

決議があったものとみなされた日 令和3年8月2日(月)

決議があったものとみなされた事項

第1号議案 東京視覚障害者生活支援センターのエレベーターの修繕に係る費用を、
移譲時特別預託金の取り崩しにて行うことについて

第4回理事会

期日 令和3年9月9日(木) 13:25~14:50

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続による各会場

議題 第1号議案 第69回全国盲人福祉施設大会について

第2号議案 東京視覚障害者生活支援センター移譲時特別預託金の取り崩しに

- ついて (1) エレベーター修繕に係る金額の修正
(2) 変電施設の更新について

第3号議案 定期的な部会長打ち合わせの実施について

- 報告事項 1 点字考案200年記念事業推進委員会への参加について
2 WBU マッサージセミナーへの寄付について
3 厚生労働省訪問の報告
4 東京視覚障害者生活支援センター建て替えについて

出席状況 理事8名、監事2名出席により成立 名誉会長も出席した

第5回理事会 (決議省略による)

決議があったものとみなされた日 令和3年12月27日(月)

決議があったものとみなされた事項

- 第1号議案 音声版選挙公報資材費積立金の取り崩しを行うことについて

第6回理事会

期日 令和4年3月15日(火) 13:25~14:50

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続による各会場

- 議題 第1号議案 令和3年度補正予算(案)について
第2号議案 令和4年度事業計画(案)について
第3号議案 令和4年度収支予算(案)について
第4号議案 第70回全国盲人福祉施設大会について
第5号議案 3月評議員会の招集について
第6号議案 東京視覚障害者生活支援センターの建物無償貸し付け期間の更新について
第7号議案 東京視覚障害者生活支援センターの移譲時特別預託金並びに施設整備等積立金の預託期間更新について

報告事項 1 理事長及び業務執行理事の職務状況報告案について

出席状況 理事9名、監事1名出席により成立 名誉会長も出席した

(2) 常務理事会 5回開催

第1回常務理事会

期日 令和3年5月17日(月) 10:50~11:40

場所 株式会社ラビット 402号会議室 及びリモート(Zoom)接続による各会場

- 討議事項 1 令和2年度事業報告(案)について
2 令和2年度収支決算報告(案)、財産目録について
3 社会福祉充実計画について
4 定時評議員会の招集について

- 5 任期満了に伴う新評議員候補者の推薦について
- 6 任期満了に伴う新役員候補者の推薦について
- 報告事項 1 理事長及び常務理事(業務執行理事)の職務状況報告

第2回常務理事会

期日 令和3年7月6日(火) 13:30~15:30

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室

- 討議事項 1 第69回全国盲人福祉施設大会について
- 2 次回(第3回)常務理事会の開催について
- 3 第4回理事会の開催について
- 4 点字検定事業の担当常務理事について
- 5 日本点字委員会への日盲社協からの委員推薦について
- 6 本部事務局非常勤職員の雇用期間満了について
- 7 点字考案200年記念事業について
- 8 その他

第3回常務理事会

期日 令和3年8月10日(火) 13:00~14:45

場所 リモート(Zoom)接続による各会場

- 討議事項 1 第69回全国盲人福祉施設大会について
- 2 各事業部会長との定期的会合について
- 報告事項 1 8月3日の厚生労働省訪問について

第4回常務理事会

期日 令和3年12月15日(水) 13:30~15:00

場所 日盲社協会館 4階 役員室

- 討議事項 1 第69回全国盲人福祉施設大会の反省
- 2 次回大会の基本的考え方について

第5回常務理事会

期日 令和4年3月2日(水) 13:00~15:00

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室

- 討議事項 1 令和3年度補正予算について
- 2 令和4年度事業計画案について
- 3 令和4年度収支予算案について
- 4 3月評議員会の招集について
- 5 理事長及び業務執行理事の職務状況報告について

- 6 東京視覚障害者生活支援センターの建物無償貸し付け期間の更新について
- 7 東京視覚障害者生活支援センターの移譲時特別預託金並びに施設整備

(3) 評議員会 2回開催

定時評議員会

期日 令和3年6月15日(火) 13:00~14:00

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続による各会場

- 議題 第1号議案 令和2年度事業報告(案)の承認について
第2号議案 令和2年度収支決算報告(案)の承認について
第3号議案 財産目録の承認について
第4号議案 社会福祉充実計画について
第5号議案 任期満了に伴う新役員等の選任について
第6号議案 「評議員及び役員等の報酬等に関する規程」の一文追加について

- 報告事項 1 任期満了に伴う顧問・参与について
2 定款一部変更申請の認可について

出席状況 評議員10名、監事1名出席により成立 議案説明理事3名出席

3月評議員会

期日 令和4年3月25日(金) 13:30~14:35

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続による各会場

- 議題 第1号議案 令和3年度補正予算案承認について
第2号議案 令和4年度事業計画案承認について
第3号議案 令和4年度収支予算案承認について

- 報告事項 1 第70回全国盲人福祉施設大会について
2 東京視覚障害者生活支援センターの建物無償貸し付け期間の更新について
3 東京視覚障害者生活支援センターの移譲時特別預託金並びに施設整備等積立金の預託期間更新について

出席状況 評議員9名、監事2名出席により成立 議案説明理事3名出席
名誉会長も出席

(4) 監事監査会 1回開催

期日 令和3年5月20日(木) 13:00~14:00 15:00~16:00

場所 日盲社協会館 4階 役員室

内容 事業報告案に関しては、午後1時から秋山寛監事が、収支決算報告案及び財産目録案に関しては、午後3時から島田功監事が、それぞれ監査し、その結果、修正箇所を指導した上で、監事監査報告書に署名押印した。

(5) 評議員選任・解任委員会 1回開催

期日 令和3年5月27日(木) 15:35 (第1回理事会終了後) ~16:00

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続による各会場

第1号議案 任期満了に伴う次期評議員の選任について

内容 外部委員・監事委員・事務局委員及び説明理事として舩尾政美理事長が出席し、推薦された次期評議員候補者は審議の結果、全会一致で全員選任された。

2 会員施設の入退会状況に関する事項

(1) 入会 なし

(2) 退会 5施設

令和4年3月31日現在、会員施設数は、日盲社協直営の2施設を含めて、193施設です。(各部会の内訳：点字出版部会 25施設、情報サービス部会 85施設、自立支援施設部会 46施設、生活施設部会 19施設、盲人用具部会 18施設)

3 委員会活動

第21回日盲社協社内検定試験実施のために、検定試験運営委員会を2回、試験実施委員会を8回開催した。

4 第69回全国盲人福祉施設大会

コロナ禍により、一堂に会しての大会開催を自粛し、東京視覚障害者生活支援センターを配信会場として、1日のみオンラインにて開催した。

日時 令和3年11月11日(木) 13:00~16:40

会場 オンラインにて各自視聴

配信場所 東京視覚障害者生活支援センター

主管 社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会 法人本部

参加者 約150名

内容 開会式

研修会 テーマ『進化するAIの目指すもの』

講師 慶應義塾大学理工学部・教授

慶應義塾大学共生知能創発社会研究センター センター長

栗原 聡 氏
式典（ボランティア・永年勤続職員・援護功労者表彰、来賓祝辞、
アピール文・決議文発表）

5 第21回日盲社協社内検定試験(点字技能師)の実施

令和3年11月21日(日)に、東京会場と大阪会場の2ヶ所で実施した。

6 広報事業

「日盲社協通信」を、4月と12月に発行した。

Vol.82、Vol.83とも、墨字版300部・点字版220部を作製し、会員施設及び関係団体・関係者・執筆者等へ配布した。また、ホームページにもPDF版とテキスト版を掲載した。

7 福祉関係団体への参加と活動

日本盲人福祉委員会、日本障害者協議会、日本点字委員会、障害者放送協議会、等各関係団体へ委員・協議員等が参加し協力活動をした。

8 点字普及活動（地域における公益的な取組）

点字の学習を希望している全国の受刑者へ、点字に関する資料一式を提供した。また、刑務所内では、点字器・点筆の所有が認められないため、法人独自で作成した『点字練習用紙』を提供して点字を打つ疑似体験を通して点字習得ができるよう、点字普及活動を行った。

9 その他事業

(1) 叙勲、褒章等表彰者の推薦

日盲社協からの中央推薦により、理事・点字出版部会長肥後正幸氏(社会福祉法人東京点字出版所理事長)が、第71回障害者自立更生等厚生労働大臣表彰「身体障害者等社会参加促進功労者」を受賞した。

《点字出版部会》

- 1 「点字図書出版速報」の発行（12回）
- 2 「点字出版図書のデータベース」のデータ維持
- 3 「点字出版図書総合目録点字版（令和3年度版）」全4巻の発行（40セット製作）
- 4 点字版自治体広報誌の発行の普及・拡大に向けた取り組み
今後の取り組みの検討中。
- 5 「選挙公報」点字版製作のための活動
「選挙公報点字表記委員会」を1回開催（オンライン）。
- 6 点字普及の取り組み
3年度は審査すべき新たな事案、資料の持ち込みはなかった。
- 7 『点字出版物製作基準』の製作について
コロナ禍のため、助成金の再申請も含めて活動中止。
- 8 事業部会の開催
コロナ禍のため中止。
- 9 中間部会の開催
コロナ禍のため中止。
- 10 職員研修会の開催
コロナ禍のため中止。
- 11 役員会の開催
部会運営のため、部会役員会を1回開催（オンライン）。
- 12 その他
関係機関との調整・打ち合わせ等を行った。

《情報サービス部会》

コロナ禍により、一堂に会しての会議、講習会、研修会は中止とし、書面決議又はオンライン等により実施。

1 部会総会の開催

通常部会総会（書面決議）

日時 令和3年6月10日（木）提案、25日（金）決議

- 議案
- 1 令和3年度運営体制及び各委員
 - 2 令和2年度事業報告案及び同決算報告案並びに監査報告
 - 3 令和3年度事業計画案及び同予算案
 - 4 その他特別委員会関係

2 運営委員会の開催

第1回（Zoom）

日時 令和3年6月9日（水）

- 議案
- 1 令和3年度運営体制及び各委員
 - 2 令和2年度事業報告案及び同決算報告案
 - 3 令和3年度事業計画案及び同予算案
 - 4 その他特別委員会関係

第2回（Zoom）各委員長との合同会議

日時 令和4年2月28日（月）13：30～15：00

- 議案
- 1 令和4年度運営体制及び各委員の確認
 - 2 令和4年度事業計画案並びに予算案
 - 3 第70回全国盲人福祉施設大会決議文案
 - 4 その他特別委員会関係

部会監査会 令和3年5月24日（月） 大阪市「日本ライトハウス」

3 正副部会長会議

部会三役会 随時メール等にて協議

4 委員会活動

(1) 情報化対応支援者研修委員会（情報機器コース）

第12回情報機器コース開催準備並びに運営委員会（Zoom）

5月28日、7月9日、9月10日、10月14日、11月10日、11月12日、
1月13日

(2) 点字指導員研修委員会

令和3年度点字指導員研修会中止により、メール等にて連絡調整

(3) 音訳指導員研修委員会

委員会（Zoom） 6月25日、7月15日、8月27日

全国視覚障害者情報提供施設協会録音委員会との合同会議（Zoom）

合同会議 4月23日、6月4日、8月20日、12月10日、3月17日

カリキュラム班 5月14日、6月25日、8月5日

説明班 5月14日、9月29日

ブロック説明会 1月20日(九州)、1月21日(近畿)、2月10日(中部・三重)、2月16日(中国・四国)、3月4日(東北・新潟・北海道)、3月8日(関東・山梨)

(4) 音声版選挙公報製作委員会 (Zoom)

4月9日(委員会)、4月15日(研修準備会)、5月7日(委員会)

5月13日(研修準備会)、6月8日(事務局会議)、6月22日(三媒体総務省訪問)、11月9日(事務局会議)、12月7日(三媒体特別委員会)、12月23日(委員会)、1月25日(三媒体会議)、2月10日(研修企画会)、3月16日(研修企画会)、3月22日(三媒体会議)

(5) 特別委員会

① 指定管理者制度調査研究委員会

指定管理者制度導入施設実態調査結果報告、資料の提供等(メール等にて連絡調整)

② 実態調査プロジェクト

「日本の点字図書館 37」 委員会(随時メールにて連絡調整)

5 講習会の開催

(1) 第15回音訳指導員認定再試験

期日 令和3年7月29日(木)(Zoom)

受験者 23名 合格者 20名

(2) 情報化対応支援者研修会(第12回情報機器コース)

期日 令和3年11月17日(水)～19日(金)(Zoom)

受講者 26施設・団体 37名

(3) 情報化対応支援者研修会(第5回相談支援コース)

基礎コース 期日 令和4年1月13日(木)～14日(金)(Zoom)

受講者 31名

応用コース 期日 令和4年2月24日(木)～25日(金)(Zoom)

受講者 33名

(4) 音声版選挙公報製作研修会

期日 令和3年5月21日(金)(Zoom)

参加者 25施設 50名

6 その他(全てオンライン会議)

(1) 障害者放送協議会 総会 8月26日(木)、分科会 1月24日(月)

(2) 放送・通信バリアフリー委員会 5月20日(木)

《自立支援施設部会》

令和3年度においては、昨年度に引き続きコロナ感染予防の観点から、計画していた通常部会、職員研修会とも開催を見送ることとなった。

1 会員施設の現状把握について

通常部会、職員研修会が開催できていないことから、自立支援施設部会の会員施設の現状について、一部の情報共有にとどまり、全体を把握できていない。コロナ感染対策下での現状については、令和2年4月にアンケートを実施しているが、同視点から現状の状態を調査するべく検討準備している。令和4年度にアンケートを実施する。

2 令和3年度全国盲人福祉施設大会決議

コロナ感染対策下において、事業活動の自粛や停滞があることやその影響から利用者の施設利用ニーズに十分に答えられていないことを踏まえ、継続している要望に加え、リモート支援への柔軟な認定要望及び就労継続支援事業や盲人ホーム等への生産活動への補填要望事項を追加した。

- ・ ICTの活用によるリモート支援の柔軟な運用についての認定要望。
- ・ 盲導犬（補助犬）育成について、訓練費助成の見直し要望。
- ・ 盲人ホーム事業の助成金増額要望。
- ・ 新型コロナウイルス感染対策として、生産活動の停滞による工賃減少への補填要望。

《生活施設部会》

1 「日盲社協生活施設部会通信第1号」の発行

生活施設部会では、会員施設の交流を図る方法として「日盲社協生活施設部会通信第1号」を発行し、関係者に送付した。この1号には会員施設等から15名の方より原稿をお送りいただくことが出来たので、それぞれの施設の状況や雰囲気がわかり、ある程度の交流が出来たように思っている。原稿をお寄せいただいた皆様にはここに改めて深く感謝を申し上げる次第である。

2 大会決議の提出とその活動

生活施設部会では、令和3年11月11日に東京で開催した第69回全国盲人福祉施設大会に次の4項目の大会決議を提出し、これが実現するよう関係者に理解を深めていただくための活動をした。

- (1) 盲養護老人ホーム、救護施設、グループホームなどの入所施設におけるWi-Fi設備整備への補助金の交付
- (2) 盲養護老人ホームへの措置控えの解消
- (3) 盲養護老人ホームへの入所希望者への適切な指導・相談の実施
- (4) 65歳以後に視覚障害となった方のグループホーム入居を可能とするための基準作り

3 措置費引き上げへの要望活動

生活施設部会では、全国老人福祉施設協議会（全国老施協）が政府に対して養護老人ホームの措置費を引き上げるよう働きかけた結果、厚生労働省から関係自治体に対して発出された令和3年12月24日付け老高発1224第1号「老人保護措置費に係る支弁額等の改定について」の中で、養護老人ホームの措置費を引き上げることに適切に改定していただくよう依頼がなされるとともに、その改定を行った場合は令和4年度から地方交付税において財源措置を講ずるとの通知がなされたので、各盲養護老人ホームにおいては地元の市町村長に盲養護老人ホームの措置費を引き上げていただくよう要望書を提出していただきたい旨の連絡をした。

《盲人用具部会》

- 1 令和3年度も部会を1回も開くことが出来なかった。
リモートでと企画したが、会員の都合等で断念した。
- 2 盲人用具部会のHP情報拡充は部会員の努力もあり様々な情報がリアルタイムで掲載出来るようになった。
- 3 盲人用具部会がバックアップしている視覚障害者の為の情報先進型展示会「サイトワールド」も開催出来なかった。来年度に向けて方法を考えているが、とりあえず6月にサイト出展社に連絡をとり何社くらい出展の意志があるのか調査の上、開催の有無を決める。
- 4 2年程前から言われていた半導体不足、これが部会員のメーカー及び販社に徐々に影響を与えている。既にメーカーの数社が製品の発売延期や受注停止に追い込まれた。それによって販社も売り上げ計画の修正を余儀なくされた。
- 5 半導体不足への懸念をまとめ要望書を提出しようとしたが、盲人用具部会だけでは力が弱いと感じ、日本視覚障害者団体連合(日視連)と日盲社協役員と相談したところ、共同声明として取り扱っていただけるということで準備している。

令和3年度 盲人ホーム「杉光園」事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

盲人ホーム「杉光園」は、都内在住の三療の国家資格を持つ視覚障害者に対して、地域生活支援事業として就労支援を行っている。ひとり一人の課題を把握し利用者と改善方法を確認しながら、一日も早く職業人としての「社会自立」ができるよう、それを目標に共に頑張っている。

1 利用者数の推移

年度開始時：男性4名、女性4名 計8名

年度終了時：男性4名、女性4名 計8名

入園者：男性1名 女性0名

退園者：男性1名、女性0名(就職：男性1名、女性0名)

2 電子カルテの充実と実用化について

昨年に引き続き、電子カルテへの入力指導を継続している。

また、希望する利用者に対しては、点字ディスプレイの指導を実施している。

3 患者獲得について

新型コロナウイルスの防止のため、開園時間は10時から16時と短縮して行った。

患者数は前年度のコロナの落ち込みを少しカバーし、1.5倍の伸びとなった。

4 関連機関との連携強化及び防災訓練について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施を見送った。

令和3年度 盲人ホーム「杉光園」利用実績表

	登録利用者数	延利用者数	種 別						合 計		利用料 (20%)	備 考
			マッサージ		はり				件数	金額		
			件数	金額	一科		二科					
					件数	金額	件数	金額				
4 月	8	42	34	117,400	0	0	1	2,800	35	120,200	24,040	コロナ感染者数 多数により年間 通して 10:00~16:00
5 月	8	36	26	87,600	0	0	1	2,800	27	90,400	18,080	
6 月	8	45	40	124,800	0	0	3	10,400	43	135,200	27,040	
7 月	8	40	21	75,300	0	0	2	6,600	23	81,900	16,380	
8 月	8	33	19	64,800	0	0	2	6,600	21	71,400	14,280	
9 月	8	42	38	137,700	1	4,500	3	13,500	42	155,700	31,140	
10 月	9	49	26	97,200	1	7,800	5	22,500	32	127,500	25,500	
11 月	9	51	32	117,800	0	0	4	21,200	36	139,000	27,800	
12 月	9	51	22	83,300	0	0	6	30,200	28	113,500	22,700	
1 月	9	36	23	74,800	2	9,000	3	11,500	28	95,300	19,060	
2 月	9	36	26	84,300	0	0	1	4,500	27	88,800	17,760	
3 月	9	47	54	203,000	2	8,000	7	32,000	63	243,000	48,600	
合計	102	508	361	1,268,000	6	29,300	38	164,600	405	1,461,900	292,380	

令和3年度 東京視覚障害者生活支援センター 事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

総括

令和3年度は、センターが民間移譲されて5年目となり、一つの節目ともいえる年度であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、訓練時間の短縮や各種行事の自粛等が繰り返される結果となった。また、利用者の訓練を受けることに対する意欲は高いと考えられるものの、緊急事態宣言やまん延防止の期間以外においても、感染の不安から、通所を控える利用者も少なからず見られた。

こうした状況下でも、令和3年度の利用者数は機能訓練が85名、就労移行支援が66名。延べ人数は、それぞれ5,035人、3,449人となっている。全体の利用率は89.9%と、ほぼ90%を確保することができた。事業別では、機能訓練が85.3%、就労移行支援が97.4%で、数字的には令和2年度より高いものとなっているが、詳細を見ると、年度後半に利用率が低下してきており、新年度以降に影響が大きくなると考えている。理由の一つとしては、新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年4月、5月と訓練を中止し、また、前述したように訓練参加を手控える傾向から、利用期間が長くなっていたが、当該利用者が訓練終了となる一方で、新規の利用者が少なく、結果として利用率も低下していると考えている。平均利用期間は機能訓練が16.8か月、就労移行支援は21.5か月であり、機能訓練では2か月程度、就労移行支援では6か月程度、前年度より長くなっている。特に就労移行支援では、企業の求人が落ちこんだことにより、就職の機会が非常に限定的になったことが大きく影響していると考えられる。

平均年齢は、機能訓練で52.5歳、就労移行支援では45.3歳であり、従来と大きな変化はない。居住地域については、今までと大きな違いはないが、特に機能訓練において、区部に比べ市部の利用者が少ないことが顕著と言える。

今年度の終了者は機能訓練44名、就労移行支援30名で前年度の2倍以上となった。これも、新型コロナウイルス感染拡大の影響の一つと考えている。

特定相談支援については、従来と大きな変化はないが、対面での利用計画の作成やモニタリングに加え、電話等を利用した面接等も行い、計画作成やモニタリングの漏れがないように努めた。利用人数も20名程度と大きな変化はない。

さて、民間移譲後の大きな課題であるセンターの建て替えについては、現在地での建て替えを基本に話を進めてきている。令和3年5月には、建て替え期間中の一時移転場所の具体的な候補地が示され、立地的にも恵まれていることから、現段階では当該候補地への移転を前提に話を進めているが、各種手続き等に時間を必要とし、実際の移転は令和5年秋以降と考えている。令和3年度においては、職員全体で、一時移転の建物のレイアウトや新たな建物の基本的な考え方等の検討を進めており、今後、具体的な形として示すことが必要である。

1 機能訓練課

令和2年度から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は3年度も収束せず、訓練時間

を短縮してサービスを提供する形態で1年間継続してきた。ただ、年明けから利用者から新型コロナウイルスの陽性者が出始め、サービスを数日間中止することがあった。もっとも集団感染に至ることなく最小限の中断で乗り切ることができたのは、感染・拡大対策の効果及び職員・利用者が普段から注意を払っていることの現れではないかと思う。新型コロナウイルスの感染拡大はまだ収束するめどはたっておらず、国や東京都の方針が変わればそれに伴ってこちらの対応も変えなければならないこともある。あまり振り回されることなく、対応していきたい。

訓練に関しては、利用者の満足度は概ね高いと思われる。第三者評価においても、一日に同一の訓練を複数回実施してほしいという希望はあったものの、それ以外は高く評価されている。特にほぼすべての利用者が希望するパソコンについては、オペレーションソフトや各ソフトのバージョンアップに伴う教材の変更など、即時に対応しなければならないことが多い。引き続き利用者が満足し、日常生活に活用できる力をつけることができる体系的な訓練を提供していきたい。

利用率に関しては、3年度も年間を通して80%を超え、数字上は順調であった。しかし、この数字は新型コロナウイルスの影響で利用期間の延長が比較的容易に認められたため、一人当たりの利用期間が長くなっていることが一つの要因になっていると考えられる。年度の中盤以降、新規の利用者が少なく、延長が認められた利用者が年度の中盤から後半にかけて徐々に終了していくにつれ、利用率も下がってきている。コロナ禍での広報活動は困難な面があるが、ホームページを刷新するなど工夫して、新規の利用者増を目指したい。

2 就労支援課

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、依然として就労環境も厳しい状況が続いているが、令和3年度においても、事務系職種7名、ヘルスキーパー3名の就労を実現することができた。また、訓練終了後のフォローアップで2名の、そして3名の利用者の復職が実現するなど、厳しい状況下でも成果は見られた。ただ、利用終了者の平均利用期間は前年度を大幅に上回る21か月となり、新規の利用者の受け入れに影響も出てきており、今後の改善が必要である。

訓練の提供方法は、従来通り自学自習方法をとっており、大きな変更はないが、在宅ワークや情報共有の手段として、その技術が求められるZoomやTeams等の扱いの習熟を訓練項目に加える必要が出てきた。また、就職面接そのものがZoomやTeams利用であるため、自宅に通信環境が整っていない利用者への支援も重要な項目となってきた。

在宅訓練については、新型コロナウイルス感染拡大への対応として、運営規程を改訂して実施してきているが、2名に対して実施した。今後は、コロナとは関係なく恒常的な在宅訓練の実施が認められるようになってきており、対応を急ぐこととしている。

マッサージ実習については、感染対策から、令和3年度も外部の方に対して実施することができず、利用者同士あるいは職員対象に行うにとどめた。外部の方への施術再開については現在、検討中であるが、段階的な再開を考える必要があると考えている。

3 特定相談支援事業

今年度においても、主としてセンターの利用希望者や利用者を中心にサービス等利用計画の作成やモニタリングを実施してきたが、なかには視覚障害者を対象とする相談支援事業者が近隣にないことや、視覚障害に特化した相談支援を希望される方もおり、利用終了後においても利用計画等の作成を行った。

年間の延べ件数は 92 件であった。

4 講師等の派遣

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、講習会等の中止が相次いだが、以下の講習会、学校等への派遣は実施することができた。

(1) 同行援護従業者養成研修等

世田谷区、稲城市、町田市、日本視覚障害者団体連合

(2) 専門学校等への講師派遣

国立障害者リハビリテーションセンター学院、東京都立小金井北高校、東京女子医科大学

(3) 当事者の集まり等への派遣

タートルの会、葛飾区

(4) 福祉団体等への協力

東京都ロービジョンケアネットワーク、高齢・障害・求職者雇用支援機構

(5) 企業の社会貢献事業等への協力

東京地下鉄、東武鉄道

(6) 医療機関等への協力

東京女子医科大学病院眼科、東京都眼科医会

5 建物の維持管理や衛生管理・消毒について

令和 3 年度においては、大きく 2 つの維持管理業務が発生した。一つはエレベーターであり、もう一つは変電設備の更新である。共に、人命にかかわる可能性もあり、放置することはできず、今年度の実施となった。

新型コロナ感染拡大への対応として、毎日、訓練終了後に、職員による全館の消毒作業を継続的に実施した。

6 職員関係

(1) 職員の定期健康診断を実施した。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大への対応として、毎月、新宿区による PCR 検査を受け、さらに、秋以降は、毎週 1 回、主に月曜日に抗原検査を実施した。

別表 利用者の状況

1 利用状況

区 分	機能訓練	就労移行	計
定 員	25	15	40
今年度当初人員	55	41	96
開 始 人 員	31	24	55
終 了 人 員	44	30	74
今年度末人員	42	35	77

2 月別利用人員

区 分	機能	就労	計
4 月	57	34	91
5 月	49	30	79
6 月	54	32	86
7 月	52	30	82
8 月	47	27	74
9 月	50	26	76
10 月	53	30	83
11 月	52	34	86
12 月	51	34	85
1 月	45	33	78
2 月	44	36	80
3 月	42	35	77

3 月別利用率

区分	機能	就労	全体
4月	101.0	100.0	100.6
5月	90.4	103.7	95.4
6月	91.6	102.1	95.6
7月	84.6	95.0	88.5
8月	80.2	74.6	78.1
9月	89.2	83.3	87.0
10月	92.8	91.1	92.1
11月	93.4	108.3	99.0
12月	83.1	113.3	94.4
1月	73.1	106.2	85.5
2月	71.6	101.9	82.9
3月	69.1	95.5	79.0
年間	85.3	97.4	89.9

(単位は%)

4 年齢別

	機能	就労	計
20歳未満	1	0	1
20～29	5	10	15
30～39	12	9	21
40～49	21	16	37
50～59	18	26	44
60歳以上	29	4	33
計	86	65	151

5 援護の実施機関別

区分	機能	就労	計
23区内	67	40	107
市部	9	16	25
郡部	0	0	0
他県	10	9	19
計	86	65	151

6 終了者の利用期間別

区 分	機能	就労	計
6ヶ月 未満	4	5	9
6ヶ月 以上	10	1	11
1年 以上	22	10	32
2年 以上	8	14	22
計	44	30	74

7 利用者の終了理由別

区 分	機能	就労	合計
就職 (現職復帰を含む)	7	16	23
家庭 復 帰	32	11	43
当センター就労移行	1	0	1
施 設 ・ 学 校	4	3	7
入 院	0	0	0
死 亡	0	0	0
計	44	30	74

令和3年度 第21回日盲社協社内検定試験事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

社協社内検定試験は、コロナ禍で令和2年度は中止したが、令和3年度は東京と大阪の2会場で令和3年11月21日(日)に以下の通り開催した。

1. 試験結果状況

- (1) 試験会場 東京：戸山サンライズ
大阪：玉水記念館
- (2) 受験申込者 57名(東京:22名 大阪:35名)
申込者57名のうち点字使用者 23名
- (3) 受験者 53名(東京:19名 大阪:34名)
受験者53名のうち点字使用者 21名
- (4) 合格者 11名(点字使用者 5名・墨字使用者 6名)
学科試験・実技試験とも受験 42名のうち 5名
学科試験のみ受験 5名のうち 3名
実技試験のみ受験 6名のうち 3名
- (5) 一部合格者 学科 4名(点字使用者 0名・墨字使用者 4名)
実技 5名(点字使用者 1名・墨字使用者 4名)
- (6) 合格率 20.8%

2. 事業実施状況

- (1) 運営委員会 2回開催(4月30日、12月20日)
- (2) 検定実施委員会 7回開催(5月19日、8月11日、8月25日、9月8日
9月22日、10月6日、10月27日)
- (3) 募集要項配布 6月28日配布開始
- (4) 試験実施 11月21日(日)
- (5) 試験結果発表 12月24日
- (6) 合格証書発送 令和4年1月20日

令和3年度 日盲社協事業報告附属明細書

令和3年度事業報告には、社会福祉法施行規則第二条の二十五第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しませんでした。